

I P M実践指標（にら）

（富山県）

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄(注1)		
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
1	病害虫の発生源をなくすための除草を実施する。圃場の排水の適正管理	1			
2	圃場及びその周辺の管理 水はけの良い圃場を選択し、低湿地の圃場での作付けは避ける。(注2)	1			
3	土壌およびニラの生育に応じた適切な施肥を行う。	1			
4	健全苗の定植 定植苗は、生育がよく病害虫の発生・加害のない健全な苗を使用する。	1			
5	栽培期間中の病害虫・雑草の発生しにくい環境作り 通路及び畝のマルチ被覆、中耕、施肥の適正管理	1			
6	罹病植物及び罹病部位の除去	1			
7	害虫の侵入防止対策 シルバーポリマルチ被覆によりアブラムシ類の飛来を防止する。	1			
8	収穫後残渣の処理 栽培終了後の適正な残さ処理(圃場外への持ち出しなど)	1			
9	十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上での使用量・散布方法を決定する	1			
10	農薬の使用全般 農薬を使用する場合には作用機作の異なる農薬をローテーションで使用する。	1			
11	散布器具、・タンク等の洗浄を十分に行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川などに流入しないようにする。	1			
12	農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。(注3)	1			
13	農薬飛散対策 周辺地域内での連絡体制の強化(にら収穫時期の積極的な伝達)	1			
14	周辺作物から農薬飛散の危険性の高い期間、農薬遮蔽シートで被覆する。	1			

15	作業日誌	各農作業の実施日、病虫害・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として記録する。	1			
16	研修会等への参加	都道府県や農業協同組合が開催するIPM研修会や防除研修会等に参加する。	1			
合計点数						
対象IPM計						

注1:チェック欄では、未実施の場合は「0」、農薬未使用等当該管理ポイントがチェックの対象外であった場合は「-」と記す。

注2:排水の悪いほ場に作付けする場合は高畝とする。また、排水の悪いほ場は、暗きょ排水などの方法で排水を改善する。

注3:飛散防止措置として、農薬散布時は風の強さや風向き、散布位置や方向に注意し適切なノズル、圧力で散布する。また、散布後は器具をよく洗う。

注4:当該年度の病虫害の発生状況等から対象となる管理ポイントの合計点数を記入する。例えば、農薬を使用しない場合の「農薬の使用全般」や自分で育苗を行わない場合の「健全苗の育成」の管理ポイントの点数は対象にならない。